

私を変えてくれた弟

隠岐の島町立都万中学校 1年 岡田 羽彩



みなさんには、人生を変えてくれた人がいますか？例えば、スポーツ選手や有名人、先生や親のような周りの大人などがあげられると思います。でも、私の人生を変えてくれたのは、スポーツ選手でも、有名人でもない、私の弟です。今は、弟がいるから、私も弟に恥ずかしくないように、ルールやマナーを守って成長し、将来、弟といっしょに親を助けたいと考えています。

私には、兄が二人と、弟が一人います。弟は、私が小学校1年生の時に生まれました。弟が生まれるまではずっと私が末っ子で、いつもみんなにかわいがられていました。ご飯を食べさせてもらったり、歯磨きしてもらったりと、何をするにもたくさん甘えさせてもらいました。だから、買ってもらったワークもほとんどやらずに投げだしたり、勉強や運動でうまくいかないことがあったりすると「もういい。」と言って、すぐにあきらめてしまうクセがついていました。だめだとわかっているけどこのクセを直すことができず、さらに、いつも弟ばかり甘えてずるい、とも思うようになっていました。

そんな私を変えてくれたのは、弟でした。弟がだんだんしゃべれるようになってきた時のことです。弟は初めて、

「お姉ちゃん。羽彩。」

と、私の名前と「お姉ちゃん」という言葉を口にしました。それがとても嬉しくて、今でもあの日のことをはっきり覚えています。私はその一言でようやく、「もう末っ子じゃない。お姉ちゃんなんだ。このままじゃだめだ。」と強く意識するようになりました。

甘えてばかりだった私は、自分にできることを最後まであきらめずにやる、ということからはじめました。弟の手本になるように、家で宿題をするときも、テレビをつけず、最後までじっくり考えるようにしました。また、小さい弟の世話で大変なお母さんの役に少しでも立てるようにと、進んで皿運びなどのお手伝いをしました。すると不思議とその気持ちはお母さんにも伝わったようで、「いつもありがとう。」

と言ってもらったことを覚えています。一人前のお姉ちゃんになりたくて頑張っていたら、自分のできることが増え、していいことと悪いことの区別もつくようになり、家族の助けにもなっていたことに嬉しさを感じました。私を本当の意味でのお姉ちゃんにしてくれた弟には、とても感謝しています。

いつもそばにいてくれる家族に甘えるのは簡単です。しかし、私はみなさんに、自分にできることはあきらめず、最後まで努力することに挑戦してほしい

と思います。もちろん、途中でやめてしまいたくなることもあるでしょう。それでも、善悪の判断をきちんとして挑戦をしない限りは、自分や家族のためになることに、喜びや達成感を感じることはできません。やってみた結果がどうであっても、自分の力で挑戦しようとすることに、意味があると思うし、強くなれると思います。

私は、自分が強くなるきっかけを与えてくれた弟や家族に感謝しつつ、これからはあきらめずに、社会の中で自立し、弟と支え合い人の役に立つ人になれるよう努力する姿勢を貫きたいと思います。